

日本常民文化研究所 創立 100 周年記念事業

[所員] 安室 知 内田青蔵 佐野賢治 前田禎彦 丸山泰明

常民研、次なる 100 年に向けて

安室 知



写真1 アチック・ミュージアム内部 目録番号:河 1-6-14

1. 趣旨

神奈川大学日本常民文化研究所は、渋沢敬三がアチックミュージアムソサエティとして活動を開始した 1921 年から数えて、2021 年で創立 100 周年の節目を迎える。翌 22 年に横浜正金銀行ロンドン支店に赴任した渋沢は、業務の傍らヨーロッパの民族博物館等を見分して帰国、1925 年に「アチック・ミュージアム」と改称して、常民の生活文化を中心とする、本格的な活動を始めた。

その経緯をふまえて、1921～1925 年を全体として日本常民文化研究所の黎明期としてとらえ、その 100 年後にあたる 2021 年度より 2025 年度を神奈川大学日本常民文化研究所 100 周年記念年間 (Institute for the Study of Japanese Folk Culture Centennial Years) としてとらえることとし、関連のシンポジウム・出版を中心とした記念事業をおこなうこととした。

日本常民文化研究所のこれまでの活動に密接な関連をもつ諸機関 (国立民族学博物館、国文学研究

資料館、渋沢史料館、水産研究・教育機構水産資源研究所図書資料館等) と連携し、さらには、大学院歴史民俗資料学研究科や国際日本学部および学芸員課程など本学の教育研究の発展に、さまざまな形で寄与し得る具体的な提案をおこなうこととする。

2. 事業計画の現状

100 周年記念年間の初年度となる 2021 年度を来年度に迎えることになることから、具体的な事業計画を検討し、特別予算の申請を行うこととした。

- (1) 常民文化研究講座について、2021年度から5年間は、100周年記念として開催する。具体的なテーマについては、その年度ごとに検討する。
- (2) 記念刊行物として、漁場図集成、記念誌（常民研の100年年表）、これまで常民研が刊行してきたものの復刻等をおこなう。
- (3) 博物館相当施設化（常民文化ミュージアム・仮称）の開設に向けて具体的な作業を開始する。



写真2 アチック・ミュージアムで民具を付けた同人 目録番号：ア-78-12

3. 事業計画の課題

- (1) 常民研としては次の100年を見据えた将来構想を策定し、その第一歩として100周年記念事業を位置づける必要がある。なお、将来構想については、共同利用・共同研究の拠点化と博物館機能の強化（博物館相当施設化）を柱に計画書を作成し、12月に学長に提出した。
- (2) 100周年記念事業を実施する際、第1期：アチック・ミュージアム期（アチック時代）、第2期：財団法人日本常民文化研究所期（財団常民時代）、第3期：神奈川大学招致以降期（神大常民時代）の3期に分けて考える必要がある。2013年は渋沢敬三の没後50年であったが、100周年記念事業を具体化するにあたり、どの期に重点をおくか、あるいは全体を総合的に捉えるのかは検討が必要となる。
- (3) 博物館相当施設化を進めるに当たり、これまでの大学院歴史民俗資料学研究科や学芸員課程だけでなく、神奈川県および近隣に所在する博物館施設との連携を強化する必要がある。
- (4) 100周年記念事業を具体化するに当たり、予算上の裏付けをおこなう必要がある。そのため特別予算を5年間にわたり申請することとしたが、不確定要素が大きく、予算の確保は最も大きな課題となっている。そのため、記念出版物については、商業出版の利用について可能性を模索する必要がある。



写真3 アチック・ミュージアム新館 目録番号：河1-6-15

■ 2020年度の活動

○創立100周年記念事業 企画打合せ 2020年8月31日、2021年3月22日 オンライン開催 内田青蔵・佐野賢治・前田禎彦・丸山泰明・安室知・越智信也・加藤友子・窪田涼子